

令和6年度 こども若者★いけんぷらす

「こども・若者の居場所づくりの取組について、どんな伝え方をすれば良いと思いますか？」

アンケート調査結果（いけんのまとめ）

○調査概要

(1)調査テーマ

- こども・若者の居場所づくりの取組について、どんな伝え方をすれば良いと思いますか？

(2)調査対象

- 「こども若者★いけんぷらす」の「ぷらすメンバー」に登録している方のうち、小学5年生以上の方

(3)回収状況

- 回答数:123 件

(4)調査方法

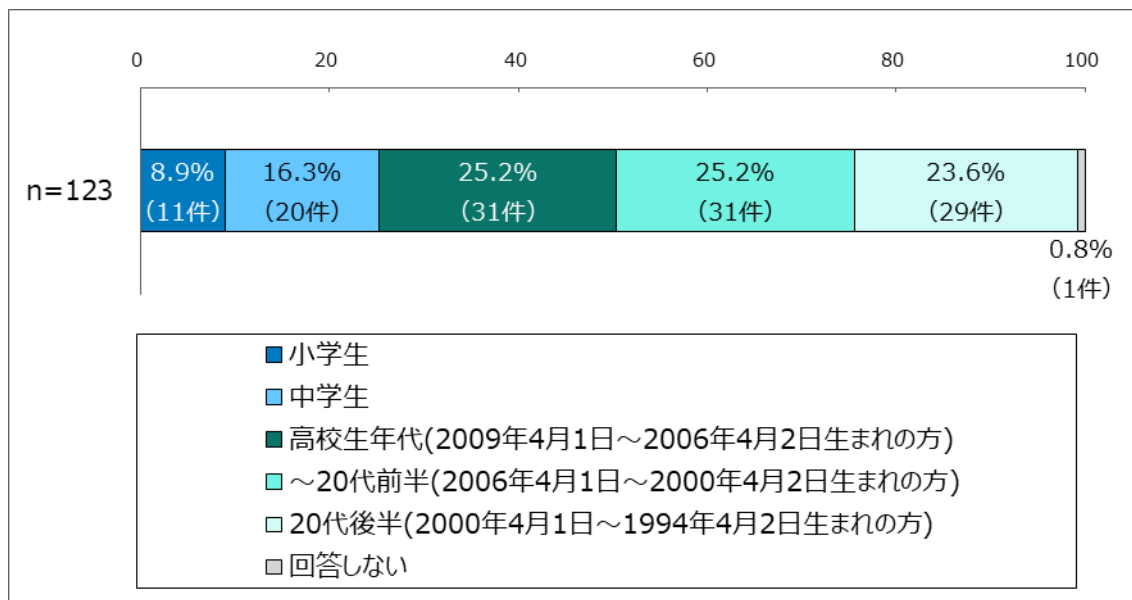
- WEB アンケート調査

(5)調査期間

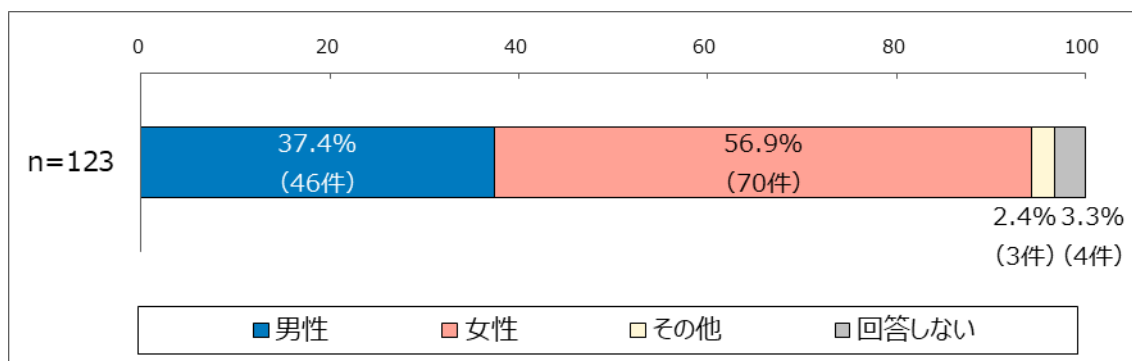
- 令和6年9月10日(火)～9月23日(月)

○調査結果

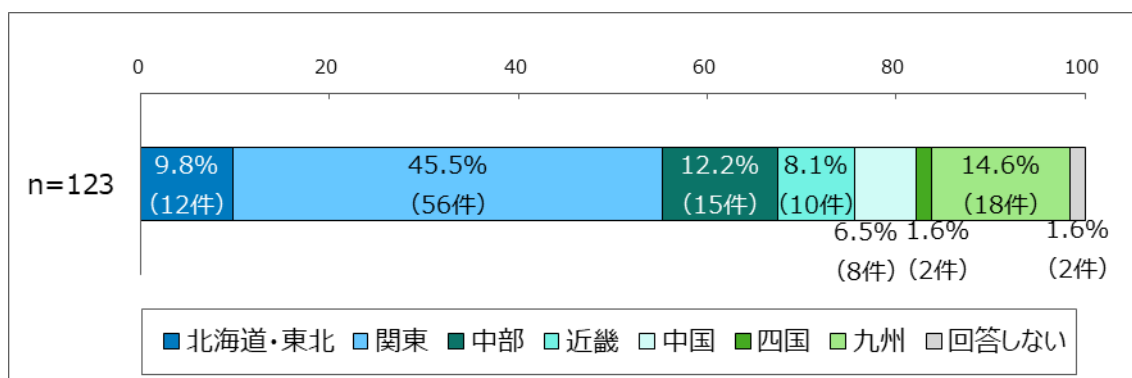
Q1. あなたの年代を教えてください。(単数回答)



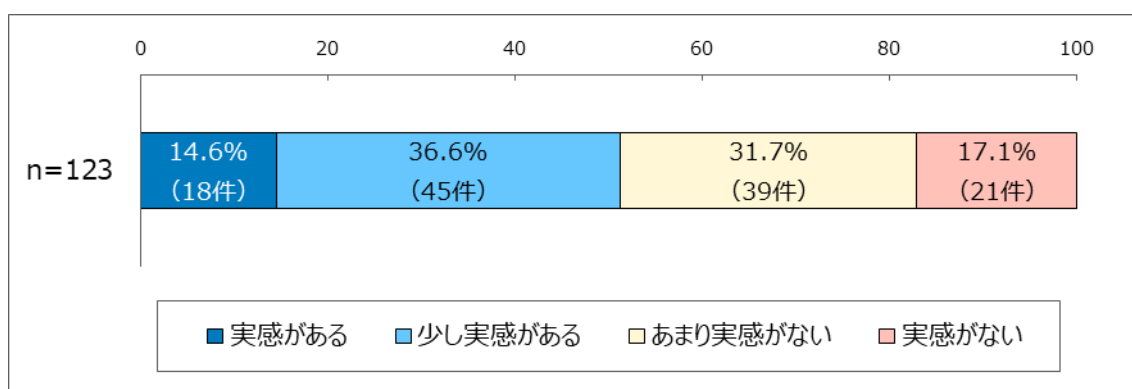
Q2. あなたの性別を教えてください。(単数回答)



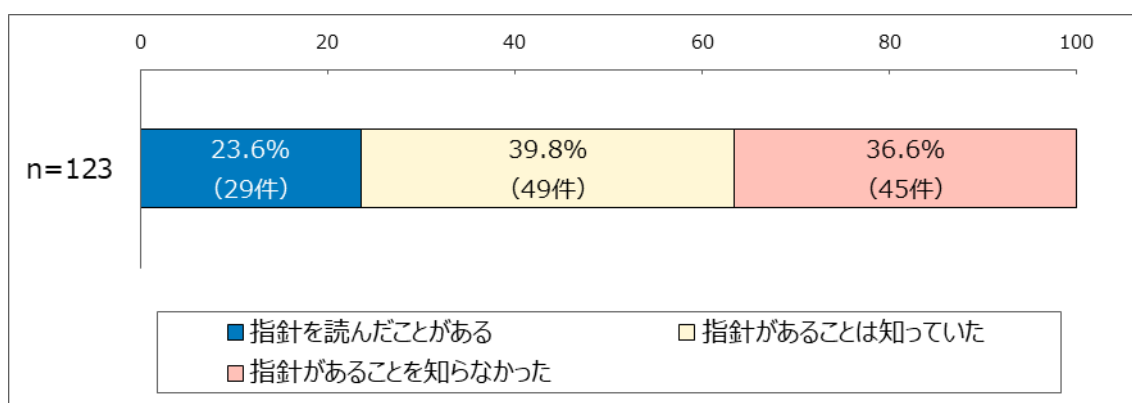
Q3. お住まいの都道府県を教えてください。(単数回答)



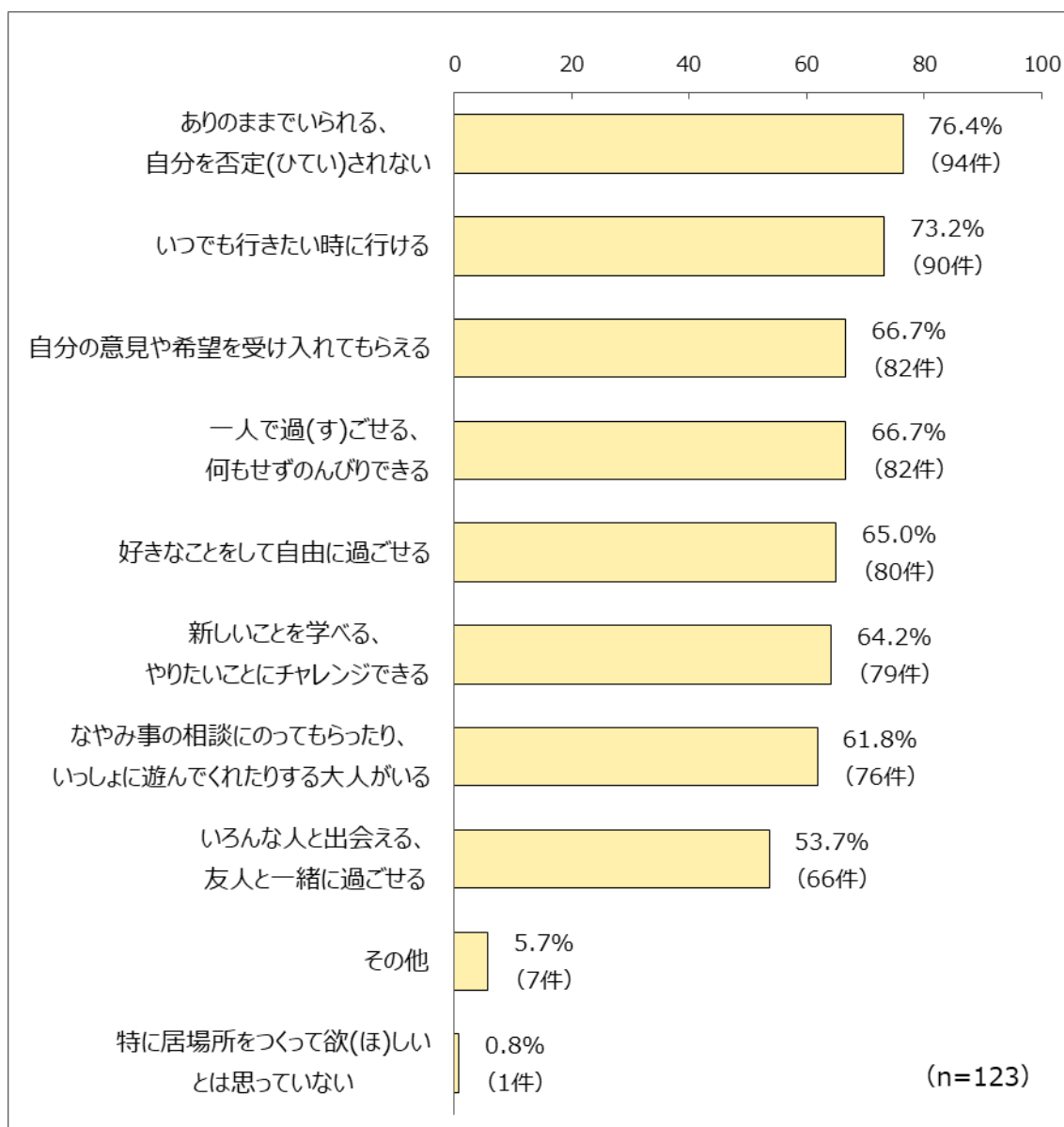
Q4. こども家庭庁では、こども・若者の居場所づくりだけでなく、あらゆる場面でこども・若者自身の声を聴くことを大事にしています。あなたは、社会や周りの大人に自分の声や要望を聞いてもらえているという実感がありますか。(単数回答)



Q5. 「こどもの居場所づくりに関する指針」というものを国がつくり、こども・若者の居場所づくりに取り組んでいることを知っていますか。(単数回答)



Q6. こども・若者の居場所づくりの取組によって、どんな居場所がつくられると嬉しいですか。
 あなたが大切だと思うことを、すべて選んでください。(複数回答)



Q7. 居場所づくりの取組で、こども・若者が本当に欲しいと思える居場所を実現させていくためには、大人側は「こども・若者の声を聴く」ことのほかに何に気を付けるべきだと思いますか。(自由記述)

- 「何かをしてあげよう」ではなく、「受け入れよう」とすること
- ありのまま受け入れる。どうして、そういうことが必要なのかを学ぶ。例えば、発達障害なら発達障害について学ぶということ。大人と子供は価値観すら違って来る。
- とにかく聴く姿勢をもつこと
- 価値観を押し付けない。
- 聴くときに威圧的にならないこと、自分たちが望む答えに誘導しないこと
- 社会全体で、こどもの声も大人の声も聴くこと、人権が保障されることが当たり前になること。そうでないと、居場所も「社会に出たら理不尽なこともあるから」「大人になったらこれくらい我慢しないとイケないから」という観点で締め付けの厳しい場所になりかねない。
- ①ただひたすら話を聞く
②絶対に否定はしない
③子供側は大人を怖がっていたりもするので、透明のパーテーションなどを置く
④子供が相談した内容を他にバラしたりしない
- 理解する事は難しくても話を聞いて欲しい
- 話を聞く中で、固定観念を押しつけない。自分の夢を押し付けない。無理に距離を縮めようとしな。本当に環境なのか、年に複数回、アンケートをして、改善をする。
- ただのわがままを書きます。絶対大人たちが気をつけられないことを言います。
 - ・自分たちはああだったこうだったを強要するな。
 - ・今の若者の考え方も取り入れるべき、否定ばかりするな
 - ・上層部ばかりで話してもそれで何回も会議してもお話結論は出ないでしょ？
 - ・お偉いアピール、きつく言われることがあれば話しかけづらいに決まってる、そんな中、パワハラ改善のことについて話すなんてどうかしてる
- こども・若者のやりたいことを応援する、支える。程よい距離感を保てる
- こども・若者の声を 1 番に尊重してほしい。否定しないで声を聞いて欲しい。権力関係にならないような関係作りをしてほしい。
- 偏見を持たないこと。決めつけないこと。
- 意見をあまり言わない人にも意見を聞く
- 意見を押し付けない、守ろうとしない
- 子供の考えを否定しない
- 子供の声を聞きその言葉から背景等を推測し聞き取ったことをしっかりと対策し実現することで信頼を得る
- 子供の特技などの個性を見つけ、伸ばす

- 子供扱いしない。一つの意見として尊重する
- 「専門家」の意見に頼りすぎず、当事者の意見を重要視すること。
- こども・若者を信じて、任せる。どんなに聴いたつもりでも、大人の作るものはあくまで大人の作るものになる。大人がこども・若者本当に信頼して尊重してこそ初めてこども・若者真ん中の居場所ができる。まずは信じて、そして任せてほしい。
- 否定しない。匿名で参加できる。
- 聞いた上で否定ばかりしないで、前向きによりそってほしい
- 聞く際の姿勢(否定しない,意見を挟まない)。
- 先入観を持たない 自分の経験で語らない 考えない
- こどもの可能性を伸ばす、否定しない
- 細かい要望まで聞く。
- 子どもが大人の圧力で潰されないように配慮する。例:公園でボール遊びが禁止、大声禁止などで子どもが満足に公園で遊べない。
- 子どもだからと下に見ずにしっかりと対等に意見を聞く、意見を取り入れる姿勢を見せる。馬鹿にしない
- 子どもたちの意見を否定せず、反映する。無理な場合は、理由をきちんと子どもに説明する責任が大人にはある。
- 子どもの考えを否定せず決めつけず、最後まで聴くこと 欲を言うならばその子どもが今どんな言葉を欲しがっているのか考えていただければ...
- 子どもを支配しようとしなない。子どもに依存させようとしなない。既存の枠組みによって語られる属性でコミュニケーションを取ろうとはせず、個人として向き合う。声を聴く以前の態度や前提ができてない大人が多いと思うから。
- 子供・若者の言っていることを理解しようとする。
- 子供だけでなく、妊婦や、子育て世代にも、何が必要か聴く。
- 子供として意見を聞くのではなく真剣な態度で受け止めてほしい。
- 声の聴き方の知識を付ける
- 声を聴くだけでなく、否定せず、受け入れる。必要な居場所は早期に予算を組み、実現する。若者に対して増税しない、手取りが減らないようにする。こどもの声がうるさいなどと、こどもの居場所を奪わない。
- 多様な子供たちの可能性を尊重し、まずは、願いを聞きやすい環境を作ることが大切だと思う。もちろん法律や他人への配慮といった社会のルールを意識させることも重要。
- 親や保護者の意見を聞くことも大切だが、こどもの意思が一番に優先されるべきということ。

- 傾聴も大切だと感じていますが、子ども自身が答えを求めているのか、それともただ聞いてほしいのかということがあるため、アドバイスをするかしないか見極めるか、直接子どもに聞いて確認を取った方がいいと思う。
- 経験や体験の機会を奪わず、積極的に機会を与えること。
- こども・若者の声を実現するためにできることを一緒に考えること。大人だけで実現して、叶えてあげたよ！という感じにならないこと。
- 聴いたうえで応えられないことはごまかさずにしっかり対応すること
- 聴いたものを実現する。(すぐに行動に移す。)
- 聴いた上で提案してもらい、それに対する意見をまた私たちが答えたらいい居場所を実現できると思う。
- 聴いた声を確実に政策に活かすこと。
- 聴いて、参考にして、実行する。
- こども・若者がよく利用している場所を実際に訪れて、大人側が考えている考えや案とのギャップがないか確かめる。体験するものがあれば実際に体験する。また、大人側で出てきた案をこども・若者に提示し、フィードバックをもらう。こども・若者の居場所の実現に必要であれば、第三者や企業と協力して居場所を作っていく。
- 地域のこども・若者が大人と一緒に居場所作りをする
- 実際に公共施設の一角に作ってみて、その後の反響を重視する
- 大人側が「してあげている」という意識を持たない
- こどもや若者に冷たい大人に権力を持たせない。
- 居場所が欲しいと切に思う方は今いるコミュニティに居場所がないと感じる人たちだと思う。コミュニティにどのようなものがあるか、どういうところに居辛いかを目を向けてほしい。
- 実際に小学校など子どもたちのいる場に行き、現在の子どもたちがどのような子なのか、流行りは何なのか、ありのままの子どもの生活を見て考えると、より今の子どもが求めるものに近づくとと思う。
- 観察する
- 刑に服している子どもたち・子どもが抱える様々な問題に対応しているNPOの方々・家裁調査官・児童相談所・警察の児童担当者・小児科医の方々・以前ご自身が居場所がなかったという大人等々の話も聴いていただきたいと思います。子どもの声を聞くことは大事だと思いますが、どんな子どもの声を聞くのが重要ではないかと思います。元気に毎日学校へ通っている子どもはそれほど居場所を必要としていないのではないかと、引きこもり、いじめにあっている、家出をしている等問題を抱えている子どもの声を聴く必要があるのではないかと思います。文科省の方は、町で夜中にふらふらしている子どもに寄り添ったことがありますか。または、何年も自宅に引きこもっている子どもたち。聴くだけでなく実態をその目で見るのが重要なのではないのでしょうか。

- 子供たちの変化を正しく見ることができる大人がいること。上から目線ではなく、対等な関係性で相談できること。
- 今、辛い渦中にいる人こそなかなか声を上げることができないのだということを知っていてほしい。また、「ここに意見を送ってね」や「この人に相談してね」と相談先をきちんと提示してほしい。
- なによりも、子どもの行き来(事故防止・犯罪多発地帯の回避)や人間関係(特にいじめ・ケンカについて)を気にかけて未然にトラブルを防いで欲しい。また、子どもとの相談やトラブルの解決にあたる大人はなるべく専門家(スクールソーシャルワーカーやキャリアコンサルタント、子どもと接する機会の多い仕事を経験した方など)に担当させてほしい。経験の少ないボランティアでは子どもに対応しづらい。
- 声を聴くだけの場所なら既にカウンセリングルームや電話で相談ができる機関等、学校でも紹介されておりある程度認識はされていますが、不登校の子の人数は増えています。そのため、声を聴いた後に相談者が望む形のアクションを取ることが出来る体制を整えることが大切だと考えます。
- 進路の相談に乗ってもらえる。
- 声を聞くだけでなく、心に気遣いがほしい。メンタルが弱い子にも強い子にも優しい社会になってほしい。
- 声を上げられない人にも気を配る
- 子供の気持ちを傷つけないようにする配慮
- 決して友達のようなフラットな関係になるわけではないが、いろいろな指示をされる上下の立場になるわけでもない、ななめの関係を適切に築いていくこと。
- 黙ってそばにいる、他愛もない話をする、家族のように接する、特別感を出さない
- 身近な居場所の場合、毎回大人の方から話しかけてきたり構われ過ぎると居心地が悪いそうだ(校内にある放課後の居場所の職員さんが「話しかけてきてうざい」と言う友達も少しいる)。不登校の友達が学校や保健室に登校した時に「周りから特別扱いをされて嫌だ」と話していた。学校や家庭には居場所に来たことを知らせないよと子どもに伝えた方が、尊重してくれていると感じるし先生や親の目を気にせずに利用できると思う。
- 大人は子供の意見を「ただ聞くこと」は良くないことで、相槌を執拗にうったり、それに対する大人としての意見を述べたりするが、そんなことはせず「ただ聞くだけ」の時間がほしい。
- 干渉しすぎない
- そっとしてほしい人の為の居場所を作る。
- 一人で遊びたいときは、一人で居たい。
- 一人の時間を与える。

- そっと見守っておいてほしいのでこちらから何か求めるまで放置してくれる場所の提供。
 - 必要に応じて、「深入りしない」という場所も必要だと思います。
 - 既存の居場所(通っている学校や働いている企業)との距離感があることが大切である。
 - 子供に干渉すぎない
 - 場合によってはその子への危害から守ってくれる場所にする
 - その人がその人らしいかつその人に合うことを考え、その人に合う適した居場所を作る。
 - インターネットに疎い人でも安心できるスペースがほしい
 - 安心出来る場所
 - 安全な場所をつくること
 - どんな失敗をしても否定されない環境。自分がここに居ていいんだという安心感を得られること。
 - 自分がいて居心地が良いかどうか。自分が居場所に行く立場だとして、行きやすい、過ごしやすい場所になっているか。そこで3時間から6時間くらい過ごせるか。みんなが過ごしやすい人、ひとりで居たい人の両方が過ごしやすいかどうかを考えて作ってほしい。また、居場所があっても、いきなり行くのはしんどいので、ネットなどで居場所の画像が見られたり、どういう人がいるのか分かったら良いと思います。
- 子どもや若者の居場所づくりに積極的に取り組んでいる自治体と、そうでない自治体がある。例えば、自分が住んでいる市には、若者の居場所が近くにない。県内でも地域によっては数が少ないので、積極的にいける場所がない。近くの居場所だと学校の先生が居場所にいるけど、話づらい。年齢が離れていると話づらいケースもあるので、10代から20代の人がいるといいと思った。
- 居心地がよく落ち着ける場所の提供
 - 居場所がいい雰囲気であるように場を保つこと。
 - 僕の住んでいるところの居場所作りは、大人が勝手に子ども達を使って選挙の為に利用しているところしかない。僕の母は、子供達が大人の事で子供達が利用されない居場所を作りたい。と言っていますが、なかなか助成金も貰えない事が一番のネックになっている。と言いました。本当の意味で、色んな子供達が毎日でも来れて、色んな人との繋がりが出来る居場所がほしいです。
 - 場があること自体は安定して保証されつつも、その内容や集う人が固定化されないこと。
 - 心の底から安心できる環境(これがないと安心して話すことは難しい)

- 「居場所がここにあるから」と言ってすべての子どもがその場に心地よさを感じることはないため一人ひとりにあった居場所の提供をすることが大事だと思う。そのために居場所には個性があることを望む。
- 当事者同士でも相性があるので合わない人同士は適度な距離取れる様にした方がよい。障害等で他害行為がある場合は本人だけでなく同じグループのメンバーや対応するスタッフ等もしっかり守れる場所作りが必要
- 障害や特性など、本人の努力や工夫では変えられない部分を上手くフォローしていける環境作り。
- 居場所は個人によって異なると考える。既存の場所・環境でも、ある個人にとっては居場所となるかもしれないと思う。居場所を新しくつくるだけでなく、個人で自分の居場所を探していくという姿勢も大切さだと考える。
- すでにある居場所を参考にする。
- 充実した設備を整えること
- 様々な方法や状況を試してみること
- 実行すること。学校などの大多数の人たちが行くところが居場所ではないことを心に刻んで欲しい
- 持続可能な居場所にすること
- 夜遅くなども入れる場所にする、いつでも行けないと意味がないと思う。
- 月に何回とかの少ない回数の開店ではなく、いつでも行きたいと思ったときに行けるような開店率が必要だと思う。
- 居場所にもよるが、オンラインでの取り組みを強化してほしい。
- 行きやすい環境がとても大事だと思う。行きたいと思っても行きづらい場所が今多いと思う。
- 情報発信を手広くやること。
- 何か問題を抱える子どもに対して専門機関や正しい場所に繋げることのできるネットワークを持つことも大切だと考えます。
- 学校や家以外にも、「居場所があるんだよ」というのを、いかに子どもに知ってもらえるかだと思います。居場所があっても、それを子ども達が知らなかったらもったいないです。また、例えばパンフレット、学校でなど、色々な媒体で伝えているつもりでも、子ども達は「連絡のひとつ」くらいにしかならず、「自分が実際に使う」ところまでイメージが湧かないこともあると思います。その場合、スルーされてしまうと思います。つまり、どうしたら「本気で使おう」と思ってもらえるかを、大人側も真剣に考える必要があると思います。そのさいに、「もし自分が子どもだったらどんな居場所を利用したいかな。どうしたら本当に使おうと思うかな。」という視点に立つのが、大人側は大切だと感じます。
- その声によって何かができたことを伝える。

- 子供たちからの意見の集め方を多様にする(SNS、学校、地域のお祭りでのアンケートなど)
- あまり税金を使わないこと
- 予算をつけること
- こども・若者に関わっている現場の大人だけが大変な思いをせずに済む体制をつくること。
- Colabo(女性を支援する NPO 法人)/もやい(困窮者を支援する NPO 法人)/POSSE(労働問題を支援する NPO 法人)などと連携してください。
- 1.子どもには、学ぶ楽しさをさらに深めるために、受験期に夢や目標を立てます。しかし、その夢や目標を絶たないとならないキッカケを作らせないためには、いじめや体罰に関するガイドラインを全国一律で見直す必要があります(ただし、性加害は同世代であれば、イジメで教師の場合体罰と扱う)。各都道府県、各市町村のすべての学校で相談事が言える警察、臨床心理士、児童精神科医、行政、学校と提携した弁護士と相談できるようにしてほしい。
- 2.発達障がいのある人にも生活しやすいように、発達障がい者の余暇活動、自助活動にも受給者証を発行し行政による一部負担をしてほしい。
- 3.大人は子どもの好き(趣味嗜好)を応援する義務がある。各都道府県に設置してある青少年条例に記載される不適切本をネットでも受け付けられるようにしたい。また、不適切サイトなども記載し、ブラックリスト化させる。
- こどもの意見を否定しない。助けを求めても、親に言いくるめられたり「親はもうしないとってるよ」と家に帰されてしまうことがとても多い。虐待する親は外面がよく、ごまかす。そもそも自分がされていること(いじめ、虐待)や自分がヤングケアラーであると気づける人はほとんどいない。気づけたひとのうちのほんの一部が助けを求める。こどもは虐待という言葉を知らない、気づかない。気づいたとして「家族がバラバラになるのが嫌だ」「知られたくない(性的虐待)」という理由で言わないことが多い。少しでも様子がおかしいと思ったら話を聞いて、後回しにせず行政につなぐこと
- 保護者の居心地も考慮すること。
- 社会問題(非行、不登校など)と結びつけること
- SNS での発信は意図がそのままつたわらないことが多いこと。
- オンラインとアンケート
- 一緒に遊ぶ
- 他者に悪影響を及ぼす人間(子どもでも)を徹底的に排除、もしくは直させること。ルールを大人だけで作らない。

Q8. 居場所づくりの取組で、こども・若者が本当に欲しいと思える居場所を実現させていくために、こども・若者側が知っておくと良いと思うこと、考えてみたいこととして、何がありますか。(自由記述)

- 誰でも使える居場所があるということ
- 居場所があること。
- 居場所になりえる公的機関があること(情報へのアクセスの方法も含めて知っておくと良いと思う)
- 1人になれる居場所もあることを知ってほしい。
- そういう場所があるという周知。絶対にひとりではないという安心感の提供。
- 今いるコミュニティが自分の世界の全てではないこと
- 居場所の場所や居場所づくりを行っている背景について
- ここは特別な場所ではないこと、いつでも迎え入れてくれること、気を使わなくていいこと、いつも味方であること、家族のように気にかけてくれること
- 安心して相談したり話したりする場所があるんだよ、という周知
- いつでも来ていい安心できる場所があることを知っておく
- 居場所の雰囲気(落ち着いた感じ、明るい感じ、にぎやかな感じなど)、意見表明権を活用できる場があるということ、どのような場所にあるのか(住宅街なのか、通学範囲内にあるのか等)、居場所にいる人はどんな人なのか
- どんな人を対象とした施設になるのか。家庭の貧富でも豊かな人とそうでない人の悩みは違うだろうし、そういう人たちが一緒にいるのは、年齢が上がるほど豊かでない人の負担になるのではないかと思う。また、精神的に辛い人が救われる場になるのかも、どんな人と関わることができるかで変わると思う。
- 今ある居場所はどのようなものがあり、どのような工夫があって、利用している子ども目線ではどのような課題や使いにくさがあるのか。今あるものから学んで、よりよい居場所を作っていく方法を考えられたらいいと思いました。
- 学校が全てではない。頼れるところがあるなら、そこに行くという選択肢があるということを知っておくと良い。学校や自宅以外で各学校の学区内には居場所を作らなければならない。(あったとしても、遠かったら行けないから)
- 学校などの大多数の人たちが行くところだけが居場所ではないこと、必ず今辛くても居場所はあるということ
- それぞれ、居たいと思う場所は違うから、自分が居たい場所の、選択肢の幅の広さ(十人十色のものは作るのが大変だから、ある程度分類されたもの?)について考えたい。
- 学校や家庭が世界のすべてではないこと
- 自分が居たい場所、やりたい事など自分にとって必要な物事を言語化しておくこと。
- 自分が心地いいと感じられる場所はどこかにあると思うからそれがどこなのか考えてみて欲しいと思った

- 自分にも気軽に頼れて生きてても良いと感じられる居場所があること
今いる辛い環境から離れて、行ける居場所があること
- 自分の為に居場所と呼べるものを作ろうと情報を発信している人がいる。これを知っているだけでとてもプラスな気持ちになると考えます。
- 自分の居場所はひとつじゃないこと、今苦しくても良い未来はつくれること
- 身の回りにある居場所について知っておくこと
- 身近な居場所のアクセスや使い方などについて。
- 身近な場所に居場所があること、自分たちの居場所を作ろうとしてある人がいること。
- 居場所＝不登校や社会に馴染めない人とかではなく、居場所はみんなのものという意識
- 自分の地域にある居場所を知ることができる機会。
- 子供の居場所が確保できていない家庭がどれだけ存在しているかということ。
- 自分自身に居場所があることの大切さを知ることは必要だと考えます。居心地のいい場所に行くことでリラックスでき、気持ちの切り替えがつかうことなど、自分自身のことを知り、どこが自分にとって安心できる場所なのか分かっておくことは大切だと考えます。
- 夜間中学や通信制/昼間制/夜間制高校、夜間部の大学などがあり、いつでも、いくつになっても学校に行ける(ので、今行けなくても絶望しなくてよい)こと。そのうえで、一旦他の居場所を持っても大丈夫であること。自分の思考回路(何で苦しんでいるのか)が分かる、考えられると良い。
- 暴力や性暴力を受けなくて済む場所があるといいなと思う。人格や能力を否定されない場所があればいいなと思う。わたしは障害者手帳を持っているので市の障害者支援施設に相談に行くことができるが、グレーゾーンの人、有資格のカウンセラーに会える環境があるといいなと思う。あるなら、これらを知っておきたい。
- こども・若者にもできるお金の集め方(自分たちでお金を集めて居場所のできることを増やせたらよい)
- 「自分が考える『あったらいいなこんな居場所』」というのを学校の授業などで考える機会を作る。
- 自分で居場所は作れること
- 今ある各個人にとっての居場所をみんなで共有する。その場所のどんな部分を居場所と感じるかを言葉にあらわす。他の人にとっての居場所発見の架け橋となるだけでなく、個人の中で自分の傾向を知り、居場所の数を広げることができると思う。あるいは、個人の性質等を AI が分析し、今その個人にとって必要な居場所を提示するのも良いかもしれない。
- 子どもと大人が交流して、狭かった視野から広い視野へと、色々な価値観を得られることが大切と思う。こどもが欲しい居場所の意見ばかりを聞いてできた居場所だと、子供

を甘くしてしまう気がする。好きなこと、得意なこと、興味があることを成長させていくことは大事だが、何もしないで居場所ではなく「たまり場」になってしまうのは違うと思う。一人一人がその居場所の一員であることを感じられるような、お手伝い(掃除など)をしたり、何かチャレンジしたり、が必要と思う。子供たちが自律していけるようにしていくことが大事だと思う。

- こども・若者の特区を作る。そこに行けばこどもと若者しかいない。いつまでも若者でいられないので一定年齢に達したら出て行く。何歳からはこどもと若者で決める。
- 「どんな居場所が欲しいか」を含めて、欲しいものややって欲しいことは伝えていったほうが得であるということ。ただし、要望の伝え方によっては損をすることもあるということ。
- どのように意見を寄せることができるのか
- 意見を言える場所があるということを知ること
- 意見を言って何とかしてくれる人が誰なのか、どこにいるのか、どんな方法で伝えたらいいのか
- 自分の要望を伝えれば、過ごしやすい居場所ができるかもしれないということ。
- 自分の意見を伝える場があるということ。「こども若者★いけんぷらす」など
- 以前、地元で一番近い若者の居場所が、自転車で 20 分のところにあるが、土曜日の午前中(9 時から 12 時)しか空いてなくて行けないし、行ってもみんながアナログゲームをやったりしていて、居心地が悪い。予算がなく、設備が古いソファや Yogibo のような、座りやすい椅子がない。というようなことを運営している市町村にメールフォームから送ったが、こういうことをガンガン言っているのかと思った。また、居場所が自分にとって、過ごしやすい場所でない場合、意見を言ったりしてもいいことが書かれていた。しかし、あまりそのことを知っていて、そういうことを言う子どもや若者がいないかもしれない。自分が居場所に過ごしやすい場所にできること。予算によるけど、Yogibo とか、Nintendo Switch などのゲームや、パソコンやタブレットをやったり、設置してもいいこと。
- 失敗するのは当たり前だし、全然怖いものではないということ
- 多数派が安全みたいな考え方やめてほしい。少数派をハブらないでほしい。
- 今、不登校やいじめで悩んでいたり、家に居場所がなくて悲しい思いをしている人は自分で声を上げることは難しい。だから、辛い経験を乗り越えた人や、解決して大人になった人が「あの時こうだった」ということを積極的に発信してほしい
- 今の若者が抱えている悩みや相談の内容などを考え、それぞれの人に合うように考える必要がある。
- 秘密はきちんと守られるということ。保護者や学校に本人の許可なく情報が回されることは絶対にないと子供達に説明して、理解してもらうこと。
- 聞いてもらえる環境があること(こどもアドボカシーなど)

- 本当に求められているものは何か理解する
- 怖い大人ばかりじゃないことを知る(良い人、救ってくれる人も居ること)
- きちんと尊重してくれる大人の存在
- どんな大人がこども・若者にとって信用出来るか考える機会が必要。
- 頼って良い大人か団体なのかどうかの指針。学校も大人も頼らない子には、頼って良いものの判断が難しいため
- 頼れる先がたくさんあること、カウンセラーなどもいることを教えてほしいです
- こども・若者を本当に心から信頼してくれる大人はどこにいるのか。
- 実施団体などが信頼できるかどうか。
- 大人の教育方針。
- 大人が何を考えているのかが知りたい
- 社会の常識
- 異常を異常と認識できるだけ的一般常識(異常を異常と認識出来ないと逃げようと言う発想が出ない)
- 主体性
- モラルを守ること。
- 周りの人たちが傷つくことは言わない
- どんなことをすれば、同じ場にいる人がより良い気持ちになれるか考えること。
- みんながストレスがたまるのはどんな時か知ること
- いたいと思える居場所がない人は大人でも結構いるということ。
- 自分とは違う考えの人もいるということ。
- 他の子供は自分と考え方や性格などが違って、個性があるので、人によって居場所は異なること。
- 長居しても疲れない場所が人には必要だということ。
- 自由の定義
- すべてが実現可能ではないということ。
- 何が可能で、何が不可能か。子供の要求がどこまで通るのか、大人がどこまで本気になるのか。
- 考えたことがどのくらい形になるのか
- 今回の児童手当の拡充など、こどもに関係があることはもっと Instagram のリールなどの身近なものに掲載してもらえば国が、僕達に何をやっているのかが多少なりとも分かるので、知る機会を増やしてほしい。
- 子どもにどんな権限が(法律的に)あるのか知りたい。それをどのようにそれぞれが活かせるのかも知りたい。
- 子供、若者にでもわかりやすい法律を知りたい、勉強する機会を与えて欲しい。自分の身を最後に守れるのは自分だから

- こどもの権利や人権について
- こども基本法
- 自分たちの声がしっかりと行政に伝わる「いけんひろば」などの制度があること
- ニュースだとこども家庭庁は結婚や子育て支援の為の省庁だと感じる報道が多いと感じていて、こども若者の意見を聞いてくれる「こども若者★いけんぷらす」をこどもや若者に知って欲しい。それぞれの居場所に『こども若者★いけんぷらす』に登録して教えてね」とキクミーやキクネーのポスターを貼る。話が少し逸れるが、キクネーのポスターを新大久保駅構内の階段昇り口付近で見つけたけれど、人が多い為皆人の流れに注意を向けているので存在に気が付かないかもと感じた。目線や身長より上に貼ってあるポスターの方が視界に入るように感じた。ただ、目線より上だとポスターにある QR コードを読み込めなくなる。
- 選択希望保護者制度。未成年者と保護者のマッチングシステム。保護者になるには子持ちになるか、保護者に値する資格(新しく作ってもよい)を持つ必要がある。未成年者は選んだ保護者とどこからどこまでできるか話し合う。ひとり暮らしが多いので世帯をまたいで保護者が複数人いてもいいんじゃないかと思う。
- 首都圏ニュース 845 で、東京・歌舞伎町の「トー横」と呼ばれる一帯に集まる子どものために東京都が開設した施設でひわいな行為をしたとして若者の利用者を逮捕したと見たので、犯罪に巻き込まれないように利用する人にはルールを守る事以外に対策はないのか考えてみたい。
- 子供同士でいじめたりしないように、どうすればいいか考える
- 1.いじめや体罰の原因は、環境にあります。いくら進学校でも、ハイレベルの勉強しますが、どんな学校でも同じことです。無茶苦茶な内容(体力反した部活動や提出課題、試験内容)にせず、各教師や各生徒に負担の少ない課題の提供や、学内のイベントに参加させたりして欲しいです。
2.発達支援が必要な人はそれがなくて、犯罪、非行、アルコールやギャンブル依存症の罹患などしてしまうことが多い。その防止策としては、余暇活動とは、自分の人生に明るい方向に向かってくれる良いきっかけ作りになるんです。
3.小・中学生が親のアカウントで言葉を調べた際、不適切画像をみることがある。中には面白半分の可能性もあるが、本当は危険。そのために、本やウェブサイトでも不健全サイトの連絡サイトを作り、子供たちの興味深いサイト作り、大人は夢や目標を支援する義務を果たし、インターネットも配慮義務を与えてください(居場所ではなくて、ネットで知るための居場所としてです)。
- 虐待、ヤングケアラーとはどういうもので自分や友達に虐待、ヤングケアラーだと気づいたらどこに助けを求めるべきか
通報の仕方や大人へのつたえかた
児童相談所の番号

民間シェルターの場所

身の回りにいなくても必ず助けてくれる人がいること

支援を受けられること

お金も出してもらえてごはんを食べさせてもらえること

親、家庭、学校が全てじゃないこと

親に脅されようが心配しようが相談した方が自分も周り楽になれること

虐待、ヤングケアラーで保護され家族がバラバラになっても、親が逮捕されてもそれはあなたのせいではなく親のせいであること。子どもは何も悪くないこと

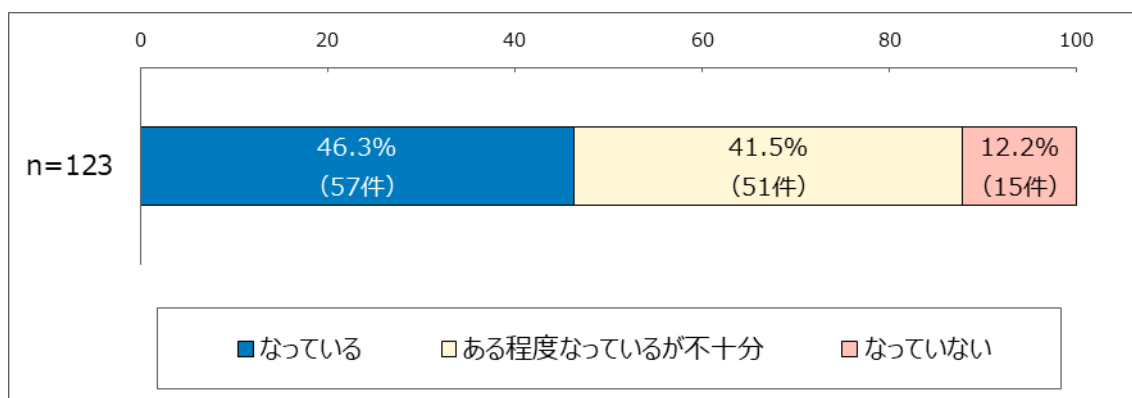
暴力がなくても虐待

心理的虐待、ネグレクト、教育虐待、宗教虐待について

性的虐待について(子どもは性行為を知らないので被害に気づかない)

- 私たちは SNS を見て情報を得ますが、自分の好きな方面のものばかりをみます。県や市の広報誌などにも目を通すと自分の住む街の情報が分かります。県や市の情報が出ていること、そのようなことを知り、視野を広く持ち生活する必要がある。(広報誌は携帯やパソコンを持たない人も誰でも気軽に見れます。)
- 社会に出て、実際に自分の目で確認することは大切だと思います。(必要不可欠なこと。)例えば、とある場所に最適なアイテムをクリエイティブして、設置すること。
- SNS は普通の価値観や世論が映る場所ではないこと。
- 公園作っとけばいいと思ってそうだけど最近の子供はゲームして過ごすから屋内で空調と Wi-Fi の効いた施設(子供限定使用可)を作るべき
- どんな高校や大学や仕事があるのかもっと知りたい。
- 子供 若者の今のはやり
- 税金や社会保険料で将来的にいくら取られることになるか

Q9. こども家庭庁が作ろうとしている、居場所づくりに関する広報資料は、みなさんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものになっていますか。(単数回答)



Q10. みなさんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか。(自由記述)

※Q9 で「ある程度なっているが不十分」または「なっていない」を選択した方のみ回答

- いくつか例になる居場所の写真がほしい。
- イラストを多くする。インフルエンサーなど有名な方が取り上げる
- マンガで説明。お笑いの人が楽しく教えてくれる。
- 文字が多かったり、カラーが多く見る気が起きない。
- 文字を減らす
- 分量をもう一度かんがえてほしい
- ページが多いので1枚でぱっと見てわかるものにしても良いかもしれない
- 行政の資料をわざわざ見る人は限られると思うので、ポスターのみでいいと思う。
- 非常に動画が長く感じた。ポスターも文字が詰め込まれており、見ただけではわかりにくくなってしまっている。
- 子ども(小学生や文を読むことが苦手な中高生)はこんなに長い文を読めない。そもそも何を一番伝えたいのか？居場所づくりの現在なのか、未来に向けた意見募集なのか、居場所の例なのか。まだ決まっていないのか空欄も多く、正直これを提示されて意見を求められても良い改善案は出せない。せめて概要は完成させてから送ってほしいです。
- 左上始まりの漫画はかなり読みづらく感じました。冊子の都合上右上始まりにできなければ、四コマ漫画にしてもいいのではないかと思います。文字が横書き+文字量が多いのも読みづらかったです。フォントもスッキリさせて、吹き出しを小さめに、絵の面積を増やして欲しいです。
- キャラクターをつくる

- VTuberのような子どもや若者に人気のバーチャルキャラに協力してもらう。
- 識字障害や外国籍など文字が読めない子どもでも読めるようにする
- とにかく、具体的にどんなところなのか、どこにあるのか、どうすればその場所を利用できるのか。実際に利用するのに、必要な情報が知りたいと思いました。
- 公民館の使い方とか正直わからないので、誰でも使えるということや利用方法について一言二言あるとよいと考える
- 実際に利用した人の声や、利用例を知りたい。施設や場所によって利用するための条件がある場合、利用条件がある施設も存在することを注釈で表示。
- 抽象的すぎる。具体的に何をするのか、何をしたことがあるのか(例えば、令和〇年〇月〇日こども会館を建てました等)
- 居場所づくりの取り組みを、全国のさまざまな事例を交えて広報してほしい。居場所づくりの取り組みは多数あり、今後も増えていくと思うので、なるべく定期的に多く紹介してほしい。そうすれば、多くの人が居場所づくりについて理解が深まったり、関心を持ったりすることができると思う。
- 実際に居場所づくりしている人達の様子や困り事、正直に書いたものが必要だと思う。居場所づくりを美化しすぎてもよくない。
- より具体的な例をあげて欲しい。具体的な地域の場所の居場所を紹介し、子供達が、「こんな居場所が身近に欲しい！」と思ったり、「こんな居場所が作れるなら、あんな居場所も作れるかな!？」など、具体的な発想を促して欲しい
- 自分の住む地域で近くにどんな居場所があるか。
- 「居場所がない人」は、物理的場所ではなく、受け入れてくれる環境を欲しているという点に注意。当事者は、こんなところにも相談できる大人がいるよ！という案内の「その先」を求めているのであって、「どのように相談すればよいのか」がわからないし、もっと初歩の「自分はどうしたいのか」も分かっていない場合がある。第一、「困っています」とだけ伝えて助けてくれる大人は実際にはいない。また、本当に困っている事柄は身近な人ほど相談しにくいし、かと言って赤の他人には文脈から説明せねばならず困難が生じる。参考までに、2008年頃に法務省人権擁護局が配布していたパンフレットでは、「～～という性質を持つ人もいる」「性質を理由に嫌がらせなどをしてはいけない」「それで困ったときは(連絡先)に相談」という、言語化の手助けやフローチャートが当時なりに完成していた。居場所を得るために必要な言語を提示してくれたほうが使いやすしいし、相談を受ける側も検証しやすいのでは？
- YouTubeも拝見いたしましたが、学校、児童館、などの活動場所の例はのっていましたが、1番大切である「誰に、どんな場所で自分の胸のうちを伝えるか」の内容が少し薄いように感じました。今の段階ではなんとも言えないという点が多いのは存じておりますが、今後の制作の意見となれば幸いです。

- ただ居場所作りではなく家にいたくないとき、虐待を受けているとき助けてほしいとき、親から離れたいとき、いじめられてるときに頼れる場所があるよと書いてほしい
- そもそもどういときに頼れるのか、どこにあるのかが全く書かれていないので虐待やヤングケアラーなどで家に居場所がないときに頼れることを書く（例：お父さんに殴られている…、ご飯を食べさせてもらえない、病気のお母さんの面倒をみてるなど）。また具体的な場所を記載する（施設やホームの名前、児童相談所の番号など）
- とても大切なこととして、「居心地がいい」ということを子どもは知りたいと思います。
- 居場所があることのメリットは伝わるが、居場所がなきゃいけない、居場所を探さなきゃいけないわけではないと思うので、そういうニュアンスが伝わるとより良いと思う。
- 頼れる大人がいるよ、怖いことはしないよ、ということを改めて伝えてください。ト一横支援施設の事件などで不信感が高まっているかもしれません。
- 主に伝えたい子ども・若者のターゲット層をきちんと絞る。
- 対象が小学校のみであればこれでいいかもしれないが、中学生、高校以上も対象なら別バージョンもあったほうが見る気になると思う。
- 学校などにもっと話を聞きに来てほしい
- SNS 等でしっかり呼びかけ、アンケート等を実施すること
- こども・若者へもっと調査をする。
- 今の若い人たちの興味のあることを何かしら探るべき。
- 若者側が実際に会って知りたいことを言う
- みんなが一緒に作る
- どうしたら本当の私たちの想いが届き、実現されるのか。その方法。
- 自分たちにはたとえどんなに小さくとも力があり、それを言うことが未来を変える始まりになると自覚できる環境づくり。
- スマホの PDF からだと文字が潰れて見にくい。動画の音声は合成ソフトなので、個人的に聞き取りにくい。自分が住んでいる自治体に、どのくらい居場所があるかポータルサイトかを作って、そこから検索できるようにする。検索サイトから検索したり、自治体のサイトだとわかりにくいと思ったから。
- メールで資料を送り都度開いてもらうという面倒な作りにしない
- 読まない層が多そうなので、SNS などの活用。
- 学校や公共施設、ショッピングモールなどで、居場所があることを知ることが簡単に来ると良い。
- パンフレットの一部分をシールにして、読む子供達が進みながらシールを貼れるような作りにする。（読み手の興味を引き出しやすいかも）
- 学習参考書や、習い事、ロボット教材などを制作し販売するならば、メーカーに補助金を設ける。
- 少子化対策について詳しく書く

- 大人が子供のためにした取り組み。子供の要求が通った例

Q11. 広報資料をどのように活用すれば、子ども・若者の目にとまりやすいと思いますか。(自由記述)

- SNS 駅 電車やバス、タクシーの中 スーパー
- SNS(X や TikTok)で発信する
- SNS で広める
- SNS で展開する
- SNS などの広告に流す。
- SNS の広告や、学校で配布されたら目に留まりやすい。
- SNS や駅や電車に掲載する
- SNS を活用する
- SNS を活用することが大切だと感じます。
- SNS を使って宣伝する。
- SNS 発信
- SNS に広告として載せる
- 読まない層が多そうなので、SNS などの活用。
- X でも拡散する、学校などに掲示する
- イラスト多めで文字少なめ、分かりやすくポップなイラストがたくさんだと目に入りやすい
い見てみようという気になると思います！
- X にのせる
- X や Instagram 、YouTube など若者が使用するインターネットツールでの宣伝、また学校や教育機関などでも宣伝そして学校での講義などを重点的に取り組む。
- Instagram など各種 SNS に広告として掲載する、図書館、市役所、駅などの公共機関の掲示板に掲示する。
- Instagram や TikTok など取り上げる。なかなか冊子では読まないかなあ。
- パンフレット 1 ページものを Instagram や X に投稿する
- Instagram や LINE など若者が多くつかう SNS で広告出す。
- やはり今 1 番浸透している情報伝達手段は SNS であるため、それを最大限活用するのが良いと思います。
- Instagram、TikTok などの SNS ツールを活用する
- より短い動画にして、SNS に流す(その際、政府の公式なものであることは冒頭からわかるようにする)
- X や Instagram、YouTube など若者の利用が多い SNS で広報を行うこと
- わたしは今は中学校で非常勤講師をしているが、いまの中学生は YouTube ショートや Instagram や X を見ているため、WEB ならそのへんかなと思う。

- 最近は漫画を読めない子どもが増えているので、Amazonの無料で読める縦読みマンガ(ウェブトゥーン)で、流行っている TikTok や Instagram のショート動画みたいなビジュアルデザインの資料を作る。
- YouTube や ABEMA や TVer の広告で流す
- AC の広告に広報マンガのキャラクターを登場させて喋らせてみたい。
- 子供向け番組の CM などに取り組んだり、テレビ内で放送する。(しまじろうの歌の中にある、『車の中から SOS』や、『ライフジャケ・オン』などのように、子どもにもわかりやすい形で取り入れる)
- CM や新聞広告 YouTube 広告などに広告資料を流す。
- 漫画パートを漫画の動画広告などで配信する。
- QuizKnock とコラボする
- インフルエンサーにも協力をお願いする。
- 若者の目を引くような、人気なキャラクターとコラボしてポスターを掲示する。
- 子供たちが好きそうなキャラクターを広報にする。
- 学校でも広報を行うこと、幼稚園や保育園などでも行う。小さな子向けのテレビ番組や CM で流して、小さな頃から居場所があると伝えていくこと
- 学校で配る。(5件)
- 学校で配る、家庭に配布する
- 学校で配る。「こども」と書かれたパンフレットが自分の学年も対象なのか分からなくて困る、ということが自分の小中学生時代にあったので、教室で一括で配るなど、対象年齢が分かったほうが迷わなくて済む。
- 学校での配布。
- 学校に配布
- 学校に配布する。
- 学校などでの配布の強化。(人権 SOS レターみたく)
- 学校などで配布する、SNS で発信する
- 学校などで普及する。
- 学校におく
- 学校に資料を配布、アンケートを実施する。
- 学校で一人一部配る。
- 学校で配る。授業で説明する。児童相談所の番号も載せる。保健室や教室などに置いておく。
- 全国の学校の目につきやすい場所に設置する
- 学校で生徒全員に配布する。
- 学校の各教室や 図書館や児童館に置く
- 学校の掲示板に貼る

- 学校や児童会に掲示してほしい。また若者向けのコンテンツ(ゲームなど)とのコラボレーションも効果的だと思う。
- 学校等の教育機関での配布、SNS
- なるべく刷って、各学校に置いて欲しい。
- わかりやすく書いて、学校などで配る
- こども家庭庁の事をそもそも学校の先生があまりにも知らないので、まず学校の教育者に通達をする必要性をかんじている。学校には、図書室があるので目に止まる位置に置いてもらう事を提案します。
- 教室にはれるようなポスターにする
- 広報資料の活用としては、学校で配布するのが全員に行き届く方法だと感じます。また、保護者にも知ってもらうために、保護者会もいいと思います。その他、学校に掲示する、塾に掲示する、など、子どもがよく集まる場所がいいと感じました。全員にいき届くのが一番確実とは感じます。
- 子どもに配る
- 学校の連絡網。
- 授業で扱う
- 授業参観とかのテーマにして使う。
- 小中学校では道徳で扱う。高校ではクラスルームに乗っけて、必ず目を通すようにとかにする。
- 冊子で配るよりも小学なら生活科、中学なら家庭科の教科書に印刷した方が授業中かもしれないが読む人が増えると思う。
- 学校の出前講座
- 電車やコンビニなどにポスターを貼る。
- 教育機関などは勿論、駅やバス停などにも掲示しておくこと
- 教育機関や民間の塾、フードコート、居場所の無い子供が立ち寄りそうな場所に掲示出来たらいいと思います。
- 学校に置く以外にも、駅やスーパーなどにおいておくと、学校に行きづらい子供にも届くかもしれません。
- 公共施設や駅、本屋などの人が多いところにパンフレットを配置たり、ポスター状にして貼り出ししたりする。
- コンビニ、店、ゲームセンター、医療施設、児童施設、図書館、子どもが入りやすい建物・場所に設置。学校・塾等で定期的に配布。
- 地下鉄や電車、バスなどこども・若者が利用する場所に掲示する。
- みんなが居る場所に広報する。図書館や塾など。
- もっと目立つような場所に設置する。学校で配る
- 今のままで十分。若者が良く居る場所に資料を設置。目にとまりやすいところなど。

- 渋谷などの大型ビジョンで流したり、バナー広告で分かりやすく紹介する。
- 日本全国にある電柱やガードレールに貼っていいことにする。
- お菓子や飲み物のパッケージに載せる
- 週刊少年ジャンプや少女雑誌などに広報マンガのキャラクター達のお話を四コママンガにして連載して、皆で居場所を考えるきっかけを作る。
- マクドナルドのトレイに敷かれている紙やファミレスのメニュー表に広報マンガの簡易版を載せて、QR コードから近くの安全な居場所やオンライン空間を表示できるようにする。
- ネットで「居場所」と調べた時に上の方にヒットするようにしておく
- ホームページから大々的に表示するなど？
- パンフレットを県や市の広報誌に載せる。子ども広報誌のような、子ども見やすいものをつくる、このような活動があると分かりやすいもの。また、連載漫画などを付け、それ目的でもいいから広報誌を手にとってもらう何かを入れる。子どもたちの中で流行しているアニメや人物を用いて、SNS で発信する。
- 現在居場所や子ども食堂を運営している人たちに配り、活動を広める。
- 様々な媒体での発信。また発信元の信用度をあげる。
- 自治体から貸与される Chromebook に広報資料がアプリで入っていたら小中学生は誰でも一度は読むと思う。
- スマホやタブレットから簡単にアクセスできるといいと思う。また、「Yahoo きっず」のような、子どもがよく使うサイトにリンクがあるといいと思った。
- ネットと紙の併用
- URL 添付ではなく画像埋め込みにする
- パンフレットや動画を QR コードから開けるようにする。
- 保存したくなるようにする。インパクトよりも。
- 実際に子供達の手渡しやすくするよう工夫する。(鉛筆や消しゴムなどのおまけをつけてポストインするなど)
- 動画の合成音声をもっと自然にできないか？
- 表紙の文字が小さくて見づらい、大きくすべき。
- 外国語版、点字版をつくる
- 文字情報に弱い人へ向けて、テレビの夕方ニュースで製作者の解説付きで取り上げたり、YouTube 公式動画などで読み上げたりして欲しい。
- 子供達が冊子を手にとって読んでみよう！と思えるような表紙にする。(子供達に人気のアニメのキャラクターとコラボするなど)
- 「教えて、イバシオン！ その1」を簡単にしたものを表紙にすると良いと思う。
- 冒頭一面等はタイトルだけで、気になったところは後ろのページ等で読むことができるなど、つかみの部分を簡潔にしてほしい。

- イラストを多めに
- キャラクターが何か怖い。
- 児童館ではなく、「児童クラブ」にした方が児童館がない地域のこどもにも見てもらえやすい。パンフレットの対象が誰かわからない。字や漢字が多いため、漫画のコマを減らす。学校も居場所の一つであることを伝え、教職員や児童クラブの職員(中山間地域では、後輩のスタッフが多くなっている)に対して研修を行う。
- こんなに長いパンフレットは読まない。もっと少ないページ or 絵本のように読みやすい短文・文章表現・親しみやすいイラストでないと頭に入らない。みんながみんなきちんと学校に通えて漢字や文が得意な子どもたちではない。むしろ、そういったことが苦手な子どもたちに向けて分かるように作らないといけないのではないかな。
- パンフレットを見てもらいたい人は、当事者の「子ども」だと思います。ですが、パンフレットの見出し「こどもの居場所づくり推進中！」をぱっとみただけだと、「へえ大人はこんなことしているんだ。」と思い、自分がおすすめされているとあまり感じられないと思いました。「こどもの居場所づくり推進中！」をみたとき、自分が子どもだったら、「居場所いきたい！」とまず思えるでしょうか。対象者が子どもで、子どもに利用してもらうことが一番の目的ならば「子どもたちへ。学校・家以外にも、こんな居場所があるよ」「子どもたちへ。学校・家以外にも、あなたの居場所はあるよ」など、もっと直接的にした方が、子どもの目にとまると感じました。
- 広報資料を含めた啓発活動の類にあまり税金を突っ込まないでほしい
- 君たちを信じる！と、思ってくれている人たちが、直接配りに来てほしい。
- 実感できるように施策を進める。
- キクミーやキクネーのポスターが可愛いので、「こども若者★いけんぷらす」も徐々に認知度が高まると思う。
- ここに書くことではないのですが、いけんひろばの開催時間について意見があります。平日の夜だと学生は参加しづらいです。私は遠くの学校に通っているのですが、申し込んでも参加できないことがあります。休日にしたり、もっと夜遅くにするなど参加しやすくなるよう時間帯を見直して欲しいです。